

和歌山病院での実習を終えて



南木 明日花

私は7月24、25日の2日間、和歌山病院で実習をさせていただきました。結核、画像読影、酸素投与療法についてなど、呼吸器疾患に関連したさまざまな内容を丁寧に教えていただきました。中でも印象に残っていることは胸部レントゲンの読影について、考え方から教えていただいたことです。今までも実習で何度も胸部レントゲンを見てきましたが、理解があいまいで、苦手意識を持っていました。なんとなくこういう感じかな、という程度だった自分の理解が、そもそもなぜ線ができるのか、線ができるのは胸部ではどういう場合か、線が消えるのはなぜか、と一から教えてくださったことで、理解が深まり、ただの丸暗記ではなく、知識として自分の中に定着させることができたと思います。また和歌山病院での実習を終えて和医大の実習に戻った時に、以前より確実に患者さんのレントゲンを理解できるようになっていて、とても嬉しく思いました。これからも暗記ではなく自分で考えることを大切に、実習に臨みたいと思います。また、結核についてですが、結核について講義をしていただいただけではなく、結核病床を見学させていただいたり、N95マスクを着用させていただいたりしました。N95マスクは思っていた以上に正しく着用することが難しく、今回きちんと教えていただけてよかったと思います。また、南方先生が御坊市やその周辺の地域の歴史についてたいへん詳しいことに驚きました。私は和歌山出身ですが、和歌山について、自分で説明できるほど詳しく知らないことに気づかされました。将来患者さんと関わっていくなかで、その地域について詳しく知っていることも大切なのではないかと感じました。

最後になりましたが、南方先生はじめ和歌山病院の先生方、事務の方々、2日間大変お世話になり、本当にありがとうございました。今回の実習で学んだこと、感じたことを忘れずに、これからの実習に取り組み、良い医師になれるように努力していきたいと思いません。